

平成28年度 美術館企画展実施計画書

	展 覧 会 名	会 期	展 示 室	内 容	鑑賞者目標	予算額 (百万円)
1	OPAM×能勢伊勢雄 シアター・イン・ミュージアム 未完の表現の系譜とは何か？ ライブ、写真、映像、前衛芸術の出会い	4月8日 (金) ～ 5月8日 (日)	展示室A	「シアター・イン・ミュージアム」とは、作品の展示だけでなく、劇場やライブハウスの要素を展示室に取り込み、展示室で音楽ライブや詩の朗読会などのイベントを開催する斬新な試み。岡山市のライブハウス「ペーパーランド」を主宰する傍ら、写真や文筆活動など多方面で活躍する能勢伊勢雄氏を監修者に迎え、ミュージシャンの大友良英など多彩なアーティストたちによる実験的なパフォーマンスや作品展示で、多層化するアートを紹介する。	約1.3万人	20程度
2	コレクションに見る 日展に集う作家たち	5月18日 (水) ～ 6月5日 (日)	展示室B	明治末の文展開設以降、帝展、新文展、さらには戦後の日展と続く系譜の中で、県内からは数多くの美術家がここを舞台に活躍し、わが国の美術界に確かな足跡を残してきた。 日本画の岩澤重夫、正井和行、洋画の江藤純平、江藤哲、中山忠彦、陶芸の河合誓徳ら、日展の中核を担った実力派の作家たちの作品を一堂に紹介する。	約1.2万人	5程度
3	生への言祝ぎ ーインスタレーション、十二の柱 +出会いのパフォーマンスー	6月11日 (土) ～ 7月18日 (月・祝)	展示室A	「出会いと五感のミュージアム」を標榜する当館を舞台に、国内外で活躍するアーティストたちの表現が響き合う祝祭空間を現出させる試み。 「インスタレーション、十二の柱」は、日本の現代美術の作家たちが、人々の生活である日々の営みに対する賛美＝「言祝ぎ」をオブジェやインスタレーションであらわす。「出会いのパフォーマンス」は、ウィーンを中心に活躍する4名のアーティストが大分の地霊にインスピレーションを得たパフォーマンスを展開する。	約3万人	40程度
4	片岡辰市コレクションの精華 ー竹田と松園、日本美術の雅びー	7月29日 (金) ～ 9月11日 (日)	展示室B	山口県の実業家・片岡辰市は、長年にわたって田能村竹田の作品や資料を中心に、周辺の南画家や文人の書画、さらには近代日本画の著名作家らの作品を蒐集して、貴重なコレクションを形成してきた。 このコレクションが大分県立美術館に収蔵されたことを機に、上村松園の幻の名作《月蝕の宵》をはじめ、田能村竹田、頼山陽、浦上玉堂、竹内栖鳳、橋本関雪らによるコレクションの代表的な秀作の数々を紹介する。	約2.5万人	17程度
5	オランダのモダン・デザイン リートフェルト/ブルーナ/ADO 遊ぶデザイン&暮らしのアート	12月2日 (金) ～ 1月22日 (日)	展示室A	名作《レッド・ブルー・チェア》で知られるヘリット・トーマス・リートフェルト、「ミッピー（うさこちゃん）」の生みの親として知られるディック・ブルーナ、そして、結核療養所で療養者たちに作業療法として玩具シリーズ「ADO（アド）」の製作を指導したコー・フェルズー。20世紀のオランダで生まれた彼らのデザインには、鮮やかな色彩と幾何学形態によるシンプルな構成、手工業が生みだすぬくもりなどに、風土や文化に培われた豊かな人間性を見出すことができる。 20世紀オランダのデザインが社会に与えた影響なども含めて検証しつつ、生活と常に密接な関係にあるデザインの魅力と可能性を展望する。	約4万人	41程度
					約12万人	123程度